

10款4項社会教育費は、63万円の増額。

下のページ、10款5項保健体育費は、66万円の増額でございます。

以上が令和4年度長井市一般会計補正予算第3号の概要でございます。よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

令和4年度長井市一般会計補正予算案に関する総括質疑

○平 進介委員長 概要の説明が終わりました。

これから質疑を行います。

ここで、総括質疑の発言通告がありますので、ご指名いたします。

勝見英一朗委員の総括質疑

○平 進介委員長 議席番号2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 8款2項2目道路橋りょう維持費、004道路維持管理事業9,020万円について(6)を市長に、(1)から(5)までを建設課長に伺います。

この事業につきましては、5月23日の産業・建設常任委員会協議会の後、6月17日の同協議会においてさらに説明があり、結果、質問の中には説明を受けたところも出てまいりましたが、若干の文言の修正をするものの、通告どおりの文意で質問させていただきます。

最初に申し上げておきますが、私は、本市のような地方都市にとって実証実験などは、積極的に取り組むべきことだと思っております。米沢市の知人が長井市はいろんなことをやっていて、いいですねと言っておりました。社会の変

化に先行する取組は、メディアを通して発信されることも多く、本市の活力と魅力を高める役割も果たします。なおさら補助率の高い事業は、取り組む価値はあると考えております。ただ、それを前提としながらも、902万円の一般財源の支出を伴う以上、十分な理解は必要と思いますので質問させていただきます。

まず最初に、建設課長にお伺いいたします。

この事業は道路障害等判別システム導入委託料ということですが、今回の交付金事業に応募することとなった理由と経過はどうだったのでしょうか。また、委託先となる事業者を今後どのように選定される予定なのでしょうか。

○平 進介委員長 小林克人建設課長。

○小林克人建設課長 お答え申し上げます。

当交付金事業に応募することになった理由と経過でございますが、近年の気候変動に伴う豪雨災害等によりまして浸水被害の発生や積雪に伴う道路障害によりまして市民生活に大きな影響を受けておるところでございます。

また、路面劣化に伴うひび割れ、また陥没によりまして例年一、二件ほどのパンク事故等が発生している状況でございます。

そのような背景の中で、道路管理者といたしまして道路の破損状況、また除雪状況等をいち早く察知いたしまして、安心・安全な市民生活を守ることが求められていると考えてございます。

しかし、道路管理の人員が1日で市内をパトロールできる範囲も限られてございまして、市民からの通報や事故が起こった事後に対応することも多々発生している状況でございます。

迅速に道路管理を行いまして、1年を通して市民からの依頼、要望等に応えるためには、パトロール以外の方法でも現場の状況を可視化できる仕組みを必要としているところでございました。

こうした中で、デジタル田園都市国家構想推

進交付金でございますが、デジタルの力を有効に活用しまして地域の課題解決や魅力向上に向けてほかの地域のモデル等を活用して迅速な横展開を行う事業について国が支援する制度でございます。

当交付金を活用し当市の課題を解決することができ、市民生活の安全を守ることができるため応募するに至り、当交付金の採択を受けたところでございます。

業者につきましては、今後、企画提案型のプロポーザル審査会によって選定を行っていく予定でございます。以上でございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 この後のプロポーザルの予定の期日とかが分かっているらっしゃいましたら教えてください。

○平 進介委員長 小林克人建設課長。

○小林克人建設課長 この補正予算につきましてお認めいただいた後にいろいろ、今も検討してございますが、応募前にはプロポーザル審査のほうを行っていきたいと考えてございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 まだ時期的には決まっていないということで解釈いたしました。

続けて、4点、建設課長にお尋ねいたします。この事業では、事業費9,020万円のうち開発費に7,040万円が充てられております。さきの産業・建設常任委員会協議会で配付された資料には、米沢市における2022年度における実証実験結果のまとめがあります。ということは、同じような開発が行われたということだと思いますし、また、同じ配付資料の中に富士通による道路パトロール支援サービスの実績も上げられております。このサービスは国土交通省のNET I Sに登録されたもので、このNET I Sは、国土交通省が新技術の活用のため、新技術に関する情報の共有及び提供を目的として整備したデータベースであるとされております。とすれ

ば、NET I Sに登録された新技術を活用することも可能なわけです。そこでお伺いいたしますが、今回の開発は、先行開発したシステムを応用し活用するための開発でしょうか、または新しいシステムの開発ということでしょうか。もし先行システムの応用ということであれば、現在把握している範囲で結構ですので、基となるシステムの概要を教えてくださいませんか。

○平 進介委員長 小林克人建設課長。

○小林克人建設課長 お答えいたします。

今回のデジタル田園都市国家構想推進交付金の制度趣旨といたしましては、ほかの地域等で実施をされているモデル、サービスを活用いたしまして、地域の個性を生かしたサービスを地域、暮らしに実装する取組でございます。その制度趣旨にのっとりまして、今回の道路障害等判別システム導入につきましても既に実施をされているモデルを活用して行うものでございます。

道路障害等判別システムの中で冬季以外の道路障害の判別システムにつきましては、勝見委員ご案内の富士通による道路パトロール支援サービス等多くの自治体で活用されておりまして、富士通以外にも既存のシステムで活用している例が多数ございます。

また、冬季の積雪による判別システムにつきましては、昨年度米沢市、高島町で実証実験が行われておりまして、それらの基礎となるシステムを当市の地域特性を踏まえながら応用していくことが可能でございます。

業者の選定でございますが、これからになりますので、基となるシステム自体が異なる可能性もございますが、今回当交付金の申請するに当たって参考にしたシステムにつきましては、市営バスや公用車のダッシュボードの上に小型のカメラを取り付けて道路状況をリアルタイムで撮影し、撮影した動画をクラウド上のウェブ

アプリケーションにおきまして地図上に撮影した箇所をプロットして画像を可視化できるシステムでございます。撮影の日時やカメラ搭載車両、住所等の抽出が可能になってございます。

今後につきましては、積雪状況、積雪量であったり、道路幅員であったり、外側線等につきまして、また道路損傷箇所をAIで画像解析により検知し、一定の値を超えた場合にアラート検知するシステム構築を行っていくものでございます。

仮に当システムを本市にて活用することになった場合は、基礎となるシステムを活用してAI分析のためのアルゴリズムの開発や精度向上を行っていくことになるものでございます。以上でございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 基となるシステムは、もちろんまだプロポーザル前なので、確定はしてないということなんですが、今のお話の範囲ですと一般的には公表されているような仕組みが基になるということでは今のお話の中からは理解したところです。

そこで先行開発されているわけですので、本市だけでなく、いろんな場面でこれは行われていると考えているんですが、そうしますともう少し時間がたてば、何年か後にはこれら開発された完成度の高いものが出てくる可能性が高いわけで、普通考えればそういう完成度の高いものが出てきた段階で導入を検討したほうが経費的にも抑えられると考えるところなんですが、今回そうではなくて、基にあるデータを使いながら、システムを使いながら長井市に合わせたものにつくり上げていくという、そうした先行的な考え方をしたいというその意図はどんなところにあるのでしょうか。

○平 進介委員長 小林克人建設課長。

○小林克人建設課長 お答えいたします。

当交付金でございますが、まず、既にほかの

地域で行っているモデル等を参考に事業を行うものであります。

また、当事業につきましては、どの自治体の場合であっても基礎データ、教師となるデータの開発が必要になるために早い遅いにかかわらず開発のコスト部分では影響されないと考えてございます。

いずれにしましても、この交付金につきましては、デジタル技術を活用して地域の課題解決等を行う自治体に対して手厚く支援しているため、この当交付金を活用して事業を行うものでございます。以上でございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 交付金事業活用したほうが本市にとって有益だご判断されたと理解いたします。

次に、質問いたしますが、今申し上げましたように、米沢市と高畠町で実証実験が行われたということでした。この実証実験の結果について、当該市町の担当課と情報交換などはなされていたのでしょうか。また、当該市町では、成果なり課題なりをどのように評価されていたのでしょうか。お分かりでしたらご紹介いただきたいと思っております。

○平 進介委員長 小林克人建設課長。

○小林克人建設課長 お答えいたします。

米沢市、高畠町で行いました積雪状況の可視化の実証実験につきましては、担当者のほうに確認いたしましたところ、従来除雪判断に半日以上要していたものがこのシステムの活用によりまして数時間程度まで短縮でき、より素早く安全な交通を確保できたということ。また、住民からの苦情対応につきまして、過去のものに遡って画像の確認ができるようになった。このため、よりの確に該当ができるようになったこと。また、住民からの問合せに対する対応等につきまして、実証実験されたシステム導入前ですと半日ほど時間を要していたものが画像から

の判断により最短1時間程度まで短縮できた等の成果が得られたことなどをお聞きしたところでございます。

一方、改善点といたしまして、撮影間隔、20秒想定で設定していたようでございますが、もう少し短い間隔が欲しい。また、カメラの設置位置につきまして、ダッシュボード上に置いていたこともありましてワイパーやボンネットが写ることもあったということで、設置位置について改善が必要であるという意見もいただいたところでございます。以上でございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 そういう実証実験が行われたわけなんですけど、米沢市、高島町においては実証実験の後の継続についてはどのように考えておられたのか、お分かりでしたらご紹介ください。

○平 進介委員長 小林克人建設課長。

○小林克人建設課長 米沢市、高島町なんですけれども、実証実験が2月いっぱいかけて1か月間行われたということでございまして、予算の要求時期とも絡みにして今のところはまだ新年度予算等は立てていないようでございます。今後、AI等の検証を重ねまして検討しているという状況だと聞いております。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 次に、質問いたします。本事業では、車載カメラを市営バス5台、市パトロールカー3台の計8台に設置し、道路状況を映像解析するとされております。そして、期待される効果として、道路パトロールへの動員延べ人数の減少が上げられているわけですが、例えばAIが映像解析して道路に損傷があるとした場合、一旦、職員が現地確認して補修するかどうかを判断しなければならないだろうと思います。すると結果として、動員延べ人数が減少するとは思えないのですが、いかがでしょうか。

また、本事業の説明の中で目視では確認が困難な箇所が把握が可能となるとあります。確かに精度を高くすれば、目視では見落とすところも発見することは可能だと思います。例えば車の振動から凹凸を見つけ出すこともできます。しかし、そうすると、確認すべき箇所が膨大になるということはないのでしょうか。補修を必要としない箇所が検出される可能性も高まります。すると、逆に作業量が増えることにつながりかねません。反対に、精度を下げれば目視と変わらなくなり、何のためのシステムか、ということになります。その辺りの課題についてはどのようにお考えでしょうか。

○平 進介委員長 小林克人建設課長。

○小林克人建設課長 お答えいたします。

積雪時期や豪雨時等におきまして単発の依頼のみならず一度に複数件の対応の要請が来ることが多く、そうした中で職員総出で見回りを行っていたものが当システムの導入によりまして撮影された映像や画像を通しまして判断が可能であるため、AIにより検知された路面の劣化状況等の映像や画像から机上での判断が可能となります。

さらにAIが自動的に判断し、アラートが通知されるようになるため、システム自体に職員が張りついて監視する必要もございません。したがって、一度現場で確認をしてから判断するのではなく、机上の判断で業者の依頼や対応についても指示ができることから職員の負担軽減につながるものと考えてございます。

システム導入当初につきましては慣れるまで操作や連携において時間がかかるかもしれませんが、将来的につきましては費用対効果といたしてAIを活用することによりまして動員延べ人数の減少につながるものと考えてございます。

また、道路判別の精度でございまして、AIによる精度を高めた場合にどこまでのレベルで

感知されるかの判断、具体的には何センチ以上の陥没であったり、何センチでの積雪、幅員がどれくらい狭くなったかなどにつきましてもあらかじめデフォルトでの設定が可能でございますので、何センチ以上の大きさの穴があれば例えば赤色でマークされたり、それ以下の場合は青色でマークされるなどの検知判別の操作が可能となりますので、危険度が高い箇所のみAIで抽出することも可能と考えてございます。したがって、初期設定の段階で対応ができるものと考えておるところでございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 そういってお話で、ただ、現段階ですと机上で判断して業者に修理依頼を出すまでには相当試行錯誤はあるだろうなどは感じたところですが、今後の進展を待ちたいと思います。

次に、5番目の質問なんですが、この事業では、どんな備品が必要となるのでしょうか。そして、その費用は幾らで、それはこのたびの事業費に含まれているのでしょうか。また、その備品の所有者は市になるのでしょうか。または委託先の事業者でしょうか。

○平 進介委員長 小林克人建設課長。

○小林克人建設課長 お答えいたします。

今回のシステム開発に当たりまして、ドライブレコーダーとそれを接続するための配線につきましては、システムを利用するための物品であるためリース料としてシステム利用料の中に計上してございます。システム利用料といたしましては、3年間の事業費約600万円を見込んでおりまして、この費用の中にはクラウドサービスの利用料も含まれてございます。

なお、システムを利用する端末につきましては、市が所有するインターネット系端末で利用が可能でありますので、事業費には含めておりません。

事業終了後のドライブレコーダー等の取扱い

につきましては、契約の際に受託者と協議してまいりたいと考えてございます。

なお、今後プロポーザル審査を行いますので、事業費そのものが変わってくる可能性はあると思っております。以上でございます。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 今回のこの備品につきましてはサービス利用料の中に入っているということでしたが、契約の前の段階での交渉等もありますので、ぜひここは長井市がその備品も所有しながら次に利用できるようなことなどが行われればよいと期待しているところです。

最後に、市長にお伺いいたします。事業期間は令和6年度までの3年間となっておりますが、その後の運用は、どのようにお考えでしょうか。デジタル田園都市国家構想推進交付金のデジタル実装タイプについては事業の立ち上げに必要なハード・ソフト経費を支援するとされておりますので、事業は引き続き行われるのが前提になっていると思います。3年後、市が事業を引き継ぐのか委託事業者にそのまま委託されるのか、現段階のお考えをお聞かせください。

また、本市には著作権はないということでしたので、システム変更の権利がないということだと思います。としたら、事業期間終了後にシステムに不具合が生じた場合とか、車載カメラを増やすとか、巡回路線を増やすとかした場合、システム改変のために開発事業者に依存しなければならないということになります。いわゆるベンダーロックインと言われる状態に陥ります。そうならないためには、システムの開発そのものに本市職員が関わることが望ましいのですが、改変する権利がなければ意味がありませんし、そうした専門知識を備えた職員を配置するのも難しいと思われれます。であれば、できるだけ汎用性の高いシステムの開発を目指すとか、事業期間終了後の一定期間はシステム改変を無償とすることを契約に盛り込むなど、事前に考えて

おく必要があると考えますが、そうした事業期間終了後のシステム維持について、市長はいかがお考えでしょうか。

○平 進介委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答え申し上げます。

私のほうには総括的なご質問で最後にご質問いただいたと思いますが、今まで5点にわたりまして建設課長がお答え申し上げた議論を聞いていますと少しかみ合っていないと思いますので、大変恐縮でございます。先に今回の事業の趣旨を少しお話をさせていただいてから答弁させていただきますてもよろしいですか。

それでは、今回なぜ私どもがデジタル田園都市国家構想の推進交付金、これは先駆型じゃなくて、横展開のタイプを3年間の事業として申請をしたのかということでございますけれども、そもそもこの技術の中でドライブレコーダーで路面を感知して、それをA Iが学習して、いわゆる道路管理に生かすという技術については、ある一定程度もう確立している。

ただし、雪国での除雪のいわゆる管理、これらについては、先ほど来勝見委員からございましたように米沢市と高畠町がちょっと実証実験で2か月ほどなさったということで、まだこれは途に就いたばかりだと。ただし、技術そのものはある程度確立されているので、横展開として私ども3年間の事業を申請したわけですね。

私どもこの特に除雪については、なぜ我々がこの事業で取り組むことの優位性といいますか、独自性があるのかということなんですが、除雪のための道路のパトロールカーというのは3台出しているんですけども、それ以外にご承知のとおり5台の市営バスがあるわけですね。この市営バスの路線というのは、実は山形県内でも私どもぐらいきめ細かく入っているところはないはずなんです。それは除雪路線で行けるところまでできるだけ深く集落内を走るということでの路線バスなんです。

したがって、通常除雪のパトロールカーが回れないところまで詳しく5台の市営バスが回ると。それをドライブレコーダーに撮って、そしてそれをA Iが、これは設定によりますけど、ずっと毎日毎日学習して行って、1年たつとすばらしい、最初から見違えるほど理解して適切な判断、2年目はさらに、3年目はさらにということで、私どもとすればこの3年間で冬季以外の路線の損傷等の判断はもちろんでございますが、除雪の判断に相当程度このA Iとドライブレコーダーの解析によるA Iの技術で省力化と、あと例えば1年目は、ドライブレコーダーとA Iで判断したんですが、これは必要ないと。ところが地元の地区長さんはじめ地元の皆様から大変だと、すぐ出動してくれと言われたと。現場見に行きますよね。そこでドライブレコーダーとA Iの判断と現場行って話を聞いた判断と学習するわけですね。それでこれはもう少し違う基準でA Iに覚えさせなきゃいけない、そういうことの繰り返しによりまして、この3年間というのは相当大きなものであると私は思っております。

しかもこの3年間の事業で、それで終わりじゃないんですね。というのはこれからプロポーザルで募集しまして、その中で一番優れたところと私ども契約するわけですが、基本的に3年間のリースとか、様々な契約の中で、ほぼその発注者というか、受注者側の部分はもうリース料大体完結するような契約になっていますので、したがって、その後は私どもの契約する際の話し方というか、契約の中身なんですけど、いわゆるリースそのものはその後も我々が使えるような形で当然できると。私どもが得たデータというのは、これは長井市独自のものですから、ほかのところではあまり参考にならないんですね。したがって、長井市独自のものとして、3年間で事業終わりますけれども、あとは少しのいろんな契約は、経費はかかりますけども、継続し

てそれを使えるということなんです。

したがって、一番何がメリットあるかという
と、恐らく勝見委員おっしゃるように、これが
ある程度確立して、除雪にも非常に有用なシス
テムだとなったとすると、また補助事業などで
導入するところが出てくるかもしれません。でも
恐らく一番補助率が下がっても5割であろうと。
でも今回の私どもの取組というのは、9割補助
なんですね。したがって、私どもは確立された
技術でないものも取り組みますから、それなり
の苦労はありますけれども、いち早く我々に合
ったものをこの3年間で、しかも1割の負担で
できるという大変なメリットがあるということ
で取り組むことにしたんですね。

ちょっと建設課長の説明も言葉不足のところ
があるかもしれませんが、極めて私ども
にとっては困難な業務なわけですよ。特に冬
場の除雪の市民の皆様からの、そして地区長の
皆さんが代表していろいろ言っただけ、
それらに対する対応というのは本当大変なん
ですけど、これが積み重ねれば積み重ねるほ
どこのAIの記憶によって、判断によって適切
にできると、省力化につながると思ってお
りますので、そんなことで取り組んだという
ことをまずお話しさせていただきたいと思
います。

改めてお答え申し上げますが、令和7年度以
降につきましては、根幹となるAIの判別シ
ステムについては、事業期間内で構築する
ため、基本的にはクラウド利用料等の費用
が、その後続けるとしたらですね、かかっ
てくるということが想定されます。当然それ
以降も続けるということで私どもかかっ
ていますから、それで、我々が使ったもの
をクラウド、受注者が持って帰るなんてい
って使えないわけですよ、ほかのところ
では。ですから、当然我々としては、それ
は我々で使わせてもらうということで、プ
ロポーザル後の契約のときはそれをうたわ
せていただくという考え方であります。

事業期間が終了する令和7年度以降の利用に
ついては、保守費用やクラウドサービス利用
料、機器等の取扱い等について事業期間終
了後も本市にとって有益に使用できるよ
う仕様書を盛り込み、契約の際にはその
ような条項を設けることを考えてお
ります。

事業の検証を踏まえることはもちろん
ですが、当事業については継続して行
うことでAIの学習機能の効果が発
揮され、効果が出てくるもの
と考えております。

AIの活用により道路状況等をいち早く察
知し、安心・安全な市民生活を守るため
、3年間の事業期間で長井市の実情に
合致するより汎用性の高いシステムを
構築し、引き続き使用してまいりたい
と考えているところでございます。
以上です。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 今、除雪のご苦
労、そして重点としてそこに対応する
ことを目指しているという市長のお話
でした。AIが学習するまでは教師デ
ータと突き合わせながら、その3年
間は多分労力もかかるだろうとは思
いますが、その後につながるもの
として期待したいと思

います。
今、市長から事業の検証はもちろ
んというお話がありましたけれども、最
後に、1点お尋ねいたします。この
3年間の事業期間の中で総括的な見
直しというのは必要になってくるか
と思います。例えば2年間終わった
後の令和6年度あたりに、この事業
の見直しを行って、事業終了後の
7年以降に生かすということも必
要だと思うのですが、この事業期
間中、そのような途中での見直し
につきまして市長のお考えを最後
にお尋ねしたいと思

○平 進介委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

勝見委員おっしゃるように、きち
っとやっぱりシステムを導入して、
それをずっと続けるだ

けではなくて、やっぱりしっかりしっかり節目節目で総括が必要で、それを生かして、その後どういうふうに改善して、また次のチャレンジをしていくかということの考え方が重要だと思っております。

本システムにつきましては、路面の性状の既の実績のあるシステムに先ほど申し上げましたように、もうそういった路面をビデオカメラで察知して、その映像でAIで判別するという技術は、もう十分に一定程度の成果といえますか、完成されたものがあるんですね。例えばこれ以外にも無人バスとか、路線バスとかというのはもう出ておりますけども、あれも路線バスの道路沿いにちゃんとデータ誘導するシステムがあって、それをバス自体が受け止めてずっと行くと。それももう実績としてあるわけがございますけども、私ども今回の場合は、そういった既に路面、道路等の管理ができるシステム、それに加えて除雪の部分もできるシステムということで今新しい試みになっているわけがございますけども、そういった意味では委員おっしゃるとおり2年目とは言わずに課題精査の上、一つの節目は1年ごとだと思います。きちっと課題を精査の上、見直しを図りまして、よりよいシステムを構築するように2年目、3年目と見直しをかけていってより完成度の高いそういうシステムにしていかなければいけないと思っております。以上です。

○平 進介委員長 2番、勝見英一朗委員。

○2番 勝見英一朗委員 質問は以上で終わりにさせていただきます。

多分このようなAIによる学習というのは、教師データを基にして判断されていく。多分将来にわたっては、自動運転とか、ドローンによる配送とか、そういうところを目指しているんだろうなと思います。そうした将来に生かせる技術の開発に本市が当たると考えたいと思って今お聞きしたところですよ。

以上で質問終わります。

○平 進介委員長 以上で通告による総括質疑は終わりました。

これから補正予算案の細部審査に入ります。

なお、質疑に当たっては、答弁者並びにページ数をお示しの上、お願いいたします。

議案第39号 令和4年度長井市一般会計補正予算第3号についての質疑

○平 進介委員長 それでは、議案第39号 令和4年度長井市一般会計補正予算第3号について、ご質疑ございませんか。全部です。

15番、蒲生光男委員。

○15番 蒲生光男委員 7ページの20款雑入のコミュニティ助成事業助成金、施設命名権料収入、これっていつからいつまでの分でしたか。ちょっと私、記憶が定かでないものですから、お聞きいたします。

○平 進介委員長 高世 潤健康スポーツ課長。

○高世 潤健康スポーツ課長 お答えいたします。

契約年度につきましては、令和2年4月1日から令和5年3月31日までの3年度間の命名権料になります。以上です。

○平 進介委員長 15番、蒲生光男委員。

○15番 蒲生光男委員 この命名権については、エンドレスでずっと継続できるものと理解してよろしいですかね。双方で合意できればということが前提になると思うんですけども、そういうことはどうなっているのか、ちょっとそこまでお願いいたします。

○平 進介委員長 高世 潤健康スポーツ課長。

○高世 潤健康スポーツ課長 お答えいたします。

契約書の中では、最終年度の12月末までに次年度以降の契約の優先権を有すると明記されて